

自然環境調査報告書第 11 集にあたって

堀井 達夫

(トトロのふるさと基金 調査部会)

キーワード：墓地造成；キタリス；里山保全

狭山丘陵の開発は以前に比べて減少したとは言え、まだまだ行われているのが実態ではないだろうか、最近も墓地造成の話が持ち上がり、開発中止の要望書を所沢市長あてに提出した。また、特定外来種であるキタリスが狭山丘陵に定着していることが判明したと伝えられている。日本固有種のニホンリスとの交雑が懸念され、生物多様性保全の観点から大きな損失になると言われているが、今後当基金としてどのように関わって行くのか、何をなすべきかを考えていかなければならないだろう。一方でトトロの森 7 号地、11 号地を含む北野二丁目地域が「ふるさと所沢のみどりを守り育てる条例」に基づく里山保全地域の第 1 号に指定された。この地域が保全されることは喜ばしい事ではあるものの、面積が約 6.3ha と狭山丘陵全体からみれば、ほんの点に過ぎない。この点を面とする為にはどうすればいいのか考えていきたい。

トトロのトラスト地の取得は年々増えているが、第 11 号報告書ではトトロの森 17 号地・18 号地・19 号地の調査結果と管理方針の提言を川越が行っている。前述のキタリスと同じく特定外来種のアライグマについて、所沢市における棲息状況調査の結果を堀井、北浦、横山が報告している。北野の谷戸の復田も 4 年目となるが米の栽培に影響が懸念される湧水の有害物質調査の結果を北浦が報告している。この谷戸の昆虫相については千代田と関口が第 10 号報告書にて報告しているが 2013 年も継続して調査を行い、その結果を本号に載せている。クロスケの家で実施された夜間生物調査については、シャーマントラップ調査については関が、ライトトラップ調査については当麻、鈴木、河野、鷲塚が報告している。

報文としては、重昆達也氏と須賀聡氏からは狭山丘陵北部とその周辺におけるキツネの最近の記録について、小黒譲司氏、相澤優氏、江村高壽氏、大貫三郎氏、亀石良子氏、高橋さち子氏、長谷川守弘氏からは柳瀬川上流域のアユについて、投稿をいただいて掲載している。

謝辞

掲載した調査の中でアライグマ調査などでは多くのボランティアの協力をいただいて実施できた。この場を借り感謝申し上げます。